

〈総務経済常任委員会〉

平成22年10月25日～26日

■北海道石狩郡当別町とべつ〈JA北石狩花卉集荷施設〉

当別町の主な産業は農業で、米作は半減したが、麦・野菜・花卉栽培が伸びている。

農家戸数は激減し、深刻な問題となっているが、認定農業者は積極的に若者をターゲットにした結果、激増した(特に法人、共同)とのことである。

花卉栽培は、米の生産調整が始まった昭和45年頃から急増、平成4年に先進的農業生産推進対策事業(国庫補助)で集出荷施設を建設、販売額がかなり伸びた。目標は、より良品質な花卉生産、積極的なPRで業績を向上させること。そのために組合等で、ほ場の畑廻り・技術講習会を開催し、より一層の栽培管理・選別を徹底、また土壌消毒機を導入して、良品質な花(ユリ、デルフィニウム、カーネーションなど、約25品目、600品種)の安定供給を図り、さらなる産地としての信頼性を目指している。

国内でも有数の花卉産地となり、担当者が自信をもって前向きに取り組んでおられる姿勢に感銘を受けた。



■セイコーエプソン(株)千歳事業所



事業所の規模は、用地が6万平方メートル(東京ドームの3倍)、クリーンルーム9千平方メートル、売上高は1兆円弱。

従業員約200人のうち20%ほどが諏訪から行っているとのこと。工場は全体的に諏訪南工場と似ているが、300ウェハーの生産ができることが大きく異なる。能率は諏訪南の2.4倍で、ランニングコストの削減ができている。

千歳に事業所を建設したのは、道の企業誘致の助成が大きかったこと、空港に近く利便性がよい、冷却費用が少ない、将来性がある等が理由とのこと。

現在はプロジェクターの製造を主体としており、エプソン独自の3LCD方式で、世界の半分のシェアを誇る。

富士見事業所に関しては、今後もリソースを活用し、研究拠点を中心に継続していきたい、という話でした。パイオニア精神で仕事に打ち込んでおられる様子が、とても力強く印象的でした。

(文責 小林 光)

〈社会文教常任委員会〉

平成22年11月9日～10日

■岩手県紫波郡紫波町しわ〈100年後の子どものための循環型まちづくり〉

紫波町では、平成12年に「紫波の環境を百年後の子どもたちによりよい姿で残し伝えていきます」とした「新世紀未来宣言」を発表し、この精神のもと、平成13年に「循環型まちづくり条例」を制定しました。「資源循環のまちづくり」の柱は三つです。

①自然の恵みを大地にかえす
～有機資源の100%循環活用をめざす

代表的な取り組みは、有機資源循環施設で生ごみと家畜排泄物から堆肥を製造、良質な土づくりを進め、農産物・農業の紫波ブランド化を進めている。

生ごみの分別収集は、当町でもぜひ、導入したい。



有機資源循環施設

②森の恵みを活用し、豊かな森を創る
～森林資源の活用と森林再生をめざす



町産木材で建てられた保育園

公共施設は町産木材を活用している。虹の保育園、紫波中央駅待合施設を見学したが、構造物・仕上材すべて町内産木材である。

③捨てない、燃やさない、埋め立てしない
～焼却ごみゼロをめざす

ごみ減量、CO₂削減の取り組みとして、「紫波エコbeeクーポン券」というユニークな活動をしている。「使用済み植物油を回収した団体」「ペットボトルキャップを回収した団体」などエコ活動に取り組んでいる団体・個人に、その活動に応じたクーポン券を配布し、1ポイント1円で町内の商店で買物ができる。

エコ活動の町民への啓発として、また町内商店の活性化として学びたい活動である。